

復習が学びを強める

校長 柏木博之

本校は、4月から復習の取り組みを強化しています。

小学部校時表を昨年と変更して、8:25~8:35までの10分間を毎日「復習タイム」にしています。また、小中学部とも授業の初めの数分間、前の授業の学習内容を復習しています。小学部は算数ではほぼ毎時間復習しています。中学部では各教科小テストなどで復習しています。

このような取り組みをなぜするのでしょうか？

それは、授業だけでは学習内容が定着（定着とは脳に長期記憶させることです）しないことがあり、それを補い定着するためにやることにしました。

授業中、脳は学習内容を短期記憶として保持します。家で、学習したその日に復習すると短期記憶が強化されます。【三回の復習で長期記憶化の一回目】

寝ているとき、脳はその学習内容を整理しています。翌朝、前日の授業や前夜の家庭学習を復習することで短期記憶が長期記憶に変わります。【三回の復習で長期記憶化の二回目】

このような脳の仕組みを生かして、昨年よりさらに復習に取り組むことにしました。

ちなみに、人間の脳は忘れることに個人差はないそうです。だれでも一端は忘れます。思い起こすことが勝負になります。4時間で50%、12時間で30%忘れるという研究データもあります。また、断片的知識はすぐに記憶から排除されるそうです。1週間後・1ヶ月後に学習内容を復習するとなおいいそうです。【三回の復習で長期記憶化の三回目】

脳科学は、まだ研究が始まったばかりといえる学問です。本校では今後も、その知見を学習に生かして子どもたちの学力を向上させていきます。

最後に、記憶＝覚えるとは、「継続する努力」+「失敗してもめげない気力」によります。覚えることは身体に刻みこむことです。時間がかかります。ご家庭で励まし続けましょう。勉強をイヤイヤやるのでは効果が半分になります。ワクワク・ドキドキさせて、ほめてください。

高齢者給食試食会・スポーツ大会

14日（金）に高齢者学級の方々をお招きして給食試食会・スポーツ大会を実施しました。

給食試食会では、普段子どもたちが学校で食べている給食を高齢者の方々にも試食していただきました。「たくさん的人数で食べるとおいしい。」「にがごりの味付けがなんちゅあならん。」等と喜んでくださいました。高齢者スポーツ大会は、子どもたちと高齢者の方がチームを組み、楽しくグランドゴルフをプレーすることができました。好天にも恵まれ、大変盛り上がりました。高齢者の方々とは子供達にとって、充実したふれ合い活動となりました。またのお越しをお待ちしております。



あじさい読書週間

6月3日（月）～7日（金）は梅雨時期に本に親しむ「あじさい読書週間」でした。3日は、中学生による小学校児童への読み聞かせが行われました。3時間目は、緑陰読書の予定でしたが、硫黄岳の噴火による降灰の影響で場所を校庭のガジュマルの木陰から図書室に場所を移し、児童・生徒全員で読書を楽しみました。保護者の方も参加してくださいました。ひと月に6～10冊読むと学力が向上するといわれます。また、一日10分本を読むだけで、音楽を聴くと同様のリラックス効果があることもわかっています。ご家庭でもテレビのスイッチを切って読書を楽しんでみてはいかがでしょうか。



硫黄島に夏が来た！ プール開き

6月17日（月）に子どもたちが待ちに待った「プール開き」が開けられました。キラキラと差しこむ日差しは夏の太陽そのものでした。

子どもたちは、水遊びをしたり、自分が得意とする泳ぎを何度も泳いだりしました。また、先生と相談しながらこの夏の水泳の目標を立てやる気を高めました。

三島村は海に囲まれた島です。命を守るためにも泳力を高める必要があります。授業時間や夏休みの自由時間を生かして水に十分に慣れ親しみ、水泳を得意になってほしいです。



中学生、期末テストに燃える！！



6月17日（月）から中学部では期末テストが始まりました。一週間前から部活動も休みになり計画的に学習を進めてきました。とはいえ、期末テストは国語、社会、数学、理科、英語に加え美術、技術家庭、音楽、保健体育の九つのテストがあり中学生にとってはかなり真剣に取り組まなければ乗り切れません。

テストが始まるとピンと張りつめた雰囲気の中、「よし勉強してきたところが出たぞ。」という表情で鉛筆を走らせていました。今後も日常の授業や予習、復習を大切にして得た知識を多方面に活用できるように頑張ってください。

お知らせ



鹿児島県は、ハンセン病問題に対する正しい知識の普及啓発を図るため、6月16日（日）から1週間を「ハンセン病を正しく理解する週間」として設定しました。御承知の通り、これまでハンセン病は怖い病気であるという誤った考えから、様々な偏見・差別や人権侵害を引き起こしてきました。学校では、道徳や学級活動などの時間の中でこの問題に触れながら、偏見や差別をなくすことについて指導しています。

これを機会に、ハンセン病問題により今もなお根強い偏見や差別に苦しむ方々がいらっしやることなど正しく理解し、偏見・差別の解消に努める必要があると考えます。